

女川原発再稼働で強化される再エネ出力制御

今年は平日も出力制御、去年の倍の日数を制御対象に！

2025年3月より東北電力の出力制御が強化されています。土日は毎週対象で、平日も4月から対象に加わりました。年間の制御回数が1か所82日と去年の倍の計画です。これでは市民電力の経営が成り立ちません。そこでNPO きらきら発電はみやぎ地域市民電力連絡会と相談し、6月19日東北電力に懇談の申し入れと質問状を提出。また6月24日には仙台市環境局と懇談、出力制御の実態を説明し、全国の政令指定都市と力を合わせ、政府に出力制御を抑える政策の実施を求めるよう要望しました。以下、当日の説明内容です。上図は多賀城発電所の5月1日の発電グラフ。9時～15時の6時間制御されています。



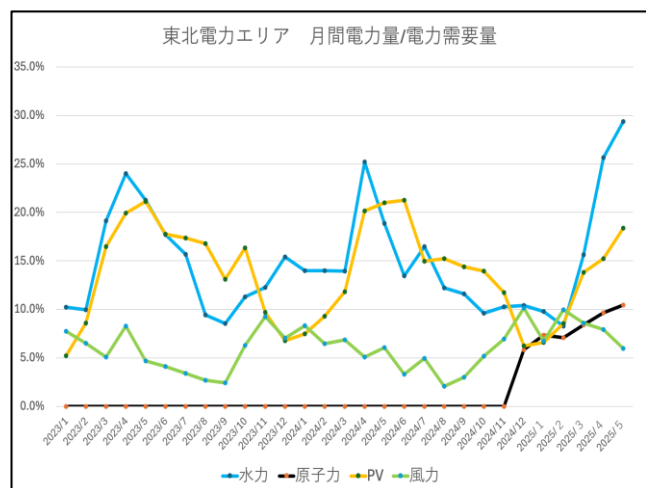
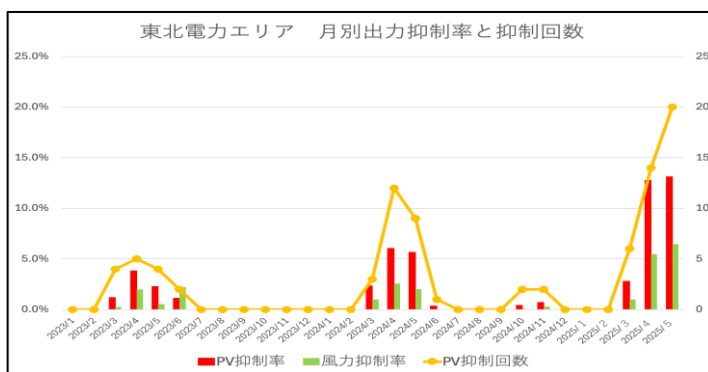
原発再稼働の中、深刻さを増す再エネの廃棄

昨年12月に女川原発が再稼働し、予想されていたことだが、本年3月からの太陽光や風力など再エネの出力制御（私たち再エネ発電事業者にとっては、抑制・廃棄・損失）が、頻度も量も著増している。2022年開始当初は春の好天で需要の少ない土日祝日だけだったが、2025年度は好天の平日が常態化し、6月になっても制御が続いている。

制御増加理由を再エネ総量増加とする論説もあるが、資料は2023年からの各月の太陽光と風力の出力制御回数と比率の推移を示した。太陽光も風力も季節性の発電変動はあるが、経年的な増加はなく、2025年で目立つのは原子力の新たな参入と季節性の水力増加(下図)だけである。

さらに、休日で類似した気象条件の昨年と今年の5月3日のトレンドグラフを見ると、太陽光発電量は増加していないにも関わらず、廃棄される太陽光発電が増加し、ベースロードの原発稼働と季節性の水力増加が主な要因になっている。

きらきら発電市民共同発電所理事長 水戸部秀利



東北電力管内は電力が供給過剰で、その余剰を東電管内に流し調整している。東電は過去の原発余剰電力の受け皿として建設した膨大な揚水発電（19箇所約7500MW）が余剰

きらきら発電・市民共同発電所 ニュース

2025年7月

第128号

〒981-3215 仙台市泉区

北中山3丁目17-12

070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/

hirohata3888@outlook.jp

再エネの調整役として働き、東電管内は未だ出力制御は不要な状態にある。

ところが、東北電力は揚水発電が1か所・約400MWと貧弱で、その状態で原発を再稼働したため、再エネの露骨な出力制御という形で跳ね返っている。同じような事象は2年前に九電管内で発生し、この時経営破綻に追い込まれる再エネ発電事業者が発生。

東北電力管内でも同様なことが起きつつあり、さらに東北電力の余剰を吸収してきた東電で刈羽原発再稼働となれば、調整能力が低下し、再エネ制御の深刻さを増すことになる。

このような事態を前に、6月19日に県内で市民電力事業を展開している4団体の連絡会として、今後の出力制御の政策や見通しを問うための懇談を東北電力ネットワークに申し入れた。懇談が実現するかどうかは未定だが、ゼロカーボンに向けた再エネ拡充の課題を議論の俎上に載せる努力や政策提言をしていきたいと考えている。

私たちは原発ゼロが基本的立場ではあるが、その論争は脇においても、クリーンな再エネを無駄にしないという立場で、例えば以下のような現実的提案もしていきたい。

- 1) 北海道・東北・関東の50Hz管内での連携線強化と再エネ有効活用の調整を行うこと。
 - 2) 貧弱な揚水発電の状況で、ベースロード位置付けの水力発電について、気象条件を勘案し夜間＞昼間のような調整機能を持たせられないかの検討。
 - 3) 現在2か所の蓄電所の増設・増強を行うこと。
 - 4) 余剰再エネを熱や水素などに転換する、所謂「Power to X」の導入促進。
 - 5) 電力消費を日中に移動する所謂「Demand Shift」のシステム化（市民レベルでも）。
 - 6) 当面原発の休止定期点検を再エネ発電の多い3～5月にあてるようにすること。
- などである。

6月21日古川くりの木保育園で再エネ教室を開催

6月21日(土)午前10時より11時までの1時間、水戸部理事長が講師となって古川くりの木保育園の園児・家族を対象に講演と実践の再エネ教室を開催しました。当日は11名の両親と園児・卒園生17名・保育士4名が参加。新しく導入した踊る人形(フラダンスする)が大人気。今年は室内で手まわし発電を体験してもらいました。みやぎ地域市民電力連絡会の浦井氏が発電状況などを説明されました。来年きらきら発電が太陽光発電を設置する予定のものの木保育園園長も参加してくれました。



井土浜1号機をドローンで空撮

きらきら発電の10年間の歩みを動画にして残そうという取り組みを4月より開始しましたが、6月井土浜1号機をドローンで空から撮影しました(右写真)。来年3月完成を目標に作業を進めています。動画を希望される方には無料でDVDを差し上げます。事務局に電話(携帯)かメールでお申し込みください。なお空撮ご希望の方は広幡まで連絡ください。



ドローンから見た井土浜1号機